

18 沼尾緑地環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 沼尾神社周辺一帯（鹿島町）
- (2) 指 定 昭和57年3月25日（茨城県告示第437号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、スダジイ、タブノキを主とする常緑照葉樹林で、イロハモミジ、モミが混生している。林内には、関東地方以西に分布するゴンズイがみられ、林床にはベニシダ、ヤブコウジ等が生育し、植生上スダジイ・ヤブコウジ群集といわれる相観を呈しており、本県の代表的な暖帯林としての特徴を有している。

また、常緑樹林を好むアオスジアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ等のアゲハチョウ類、関東地方以西に分布するチャバネセセリも数多く生息している。

特に、モンキアゲハは、通常個体数の少ない種であることから希少性を有している。

鹿島地域は、宅地造成が各所で行われているところから、この良好な自然環境を保全する必要がある。

このため、本地域は、茨城県自然環境保全条例第10条第1項第1号に規定する「樹林地が集落地周辺と一体となって良好な自然環境を形成している区域」に該当する。

(2) 自然環境の概要

ア 植 生

常緑樹林は、スダジイ、タブノキを優占種として、モミ、イロハモミジが混生している。

林内には、スダジイ、タブノキのほかヒサカキ、ゴンズイ、ヤマウルシ、ネムノキ、ツルグミ、

ムラサキシキブ、フジ、ヤマザクラ、キブシ、アオキがみられ、林床には、クマザサ、ティカカラズ、ヌスピトハギ、アズマネザサ、フジ、ベニシダ、ヤブコウジ、サルトリイバラ、サジガンクビソウ等が生育している。

この森林の構成は、植生上スダジイ-ヤブコウジ群集として位置づけられ、本県の代表的な暖帶林として学術的に価値がある。

また、ゴンズイは、関東地方以西に分布するもので、本県を北限とする特異性のある種でもある。

なお、斜面の下部にはコナラ、ガマズミ、ケヤキ、ヌルデ等の混生する落葉広葉樹林となっている。

イ 野生動物

常緑照葉樹林のもとにダイミョウセセリ、チャバネセセリ、イチモンジセセリ、オスジアゲハ、キアゲハ、アゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、キチョウ、ルリシジミ、ゴイシシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、イチモンジチョウ、コミスジ、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、コジャノメ等各種のチョウが豊富に生息している。

このうち、チャバネセセリは、関東地方以西に分布する種であり、オスジアゲハ、モンキアゲハはともに暖帶林内に生息する代表的なチョウである。特にモンキアゲハの土着地は、石川県と本県を結ぶ線以西といわれており、希少価値を有し、特異性がある。

斜面の下部に湿地があるところから、トンボ類も豊富でアジアイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ナツアカネ、アキアカネ等がみられる。

また、野鳥も人家近くに住むウズラ、コジュケイ、ヤマドリ、キジバト、キセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、ムクドリ等が確認されている。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

本地域は、スダジイ、タブノキを主とする常緑照葉樹林で、植生上スダジイ-ヤブコウジ群集の構成要素を有しており、本県の代表的な暖帶林となっている。

林内には、下層植物が数多く繁茂しているので、チョウ類やトンボ類の昆虫が種類も豊富に生息している。

このうち、関東地方以西に分布域を持つチャバネセセリや通常個体数の少ないモンキアゲハが見られる等、良好な自然環境を形成しており、これらの動植物を維持するため、自然環境の保全を図る。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病害虫防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

3 地区の指定に関する事項

本地域の区域は次のとおりとする。

単位：ヘクタール

名 称	位 置 及 び 区 域	面 積	土 地 の 所 有 别 面 積	概 要
沼 尾 緑 地	鹿島郡鹿島町大字沼尾の一部	1.35	民 有 地	
環 境 保 全 地 域	(別図のとおり)		1.35	

総 括 表

単位：ヘクタール

区	分	内 訳			計
		国有地	公有地	民有地	
土 地 所 有 别 面 積	0	0	1.35	1.35	

(面積は図上測定による概算値)

沼尾緑地環境保全地域位置図

S = $\frac{1}{50000}$



